

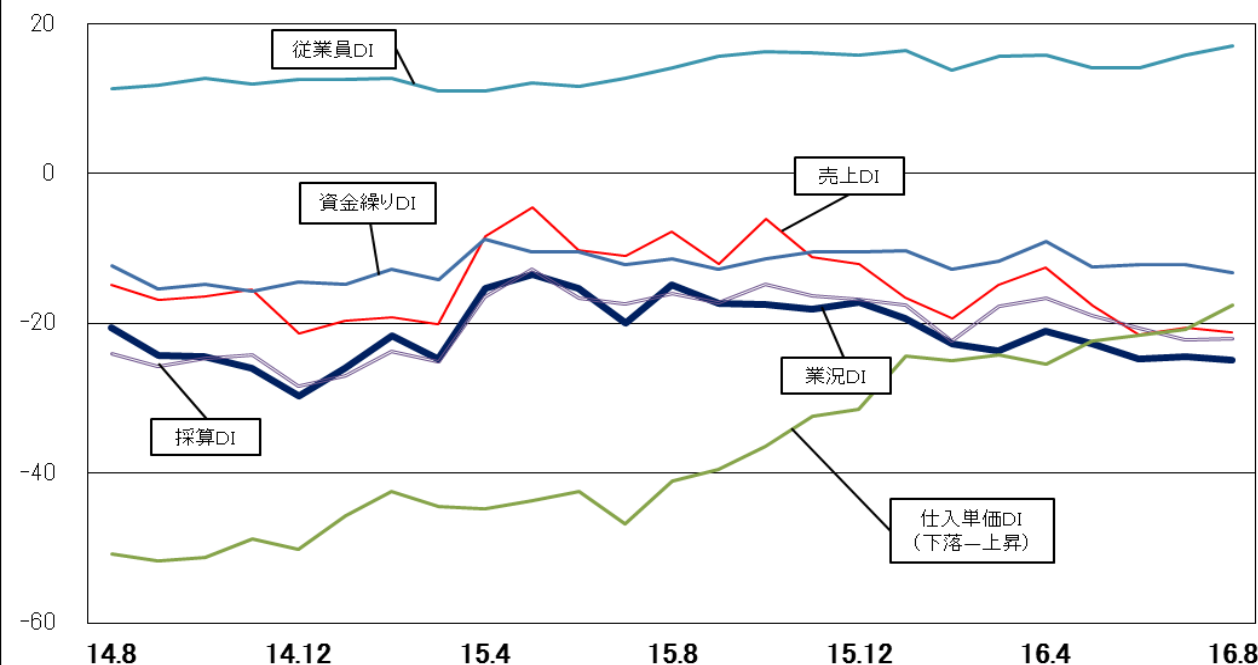


業況DIは、横ばい続く。先行きは改善見込むも、慎重な見方崩れず

ポイント

- ▶ 8月の全産業合計の業況DIは、▲24.9と、前月から▲0.4ポイントのほぼ横ばい。夏休みの堅調な観光需要のほか、賃貸住宅など民間工事に持ち直しの動きがみられる。また、円高などによる原材料価格の下落や依然として低い水準の燃料費の恩恵を指摘する声も聞かれた。他方、個人消費の鈍い動きや、販売先からのコストダウン要請の強まり、慢性的な人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇などが、中小企業のマインドを下押ししており、業況感は足踏み状況となっている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲21.4（今月比+3.5ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。観光需要や住宅建設が全体を牽引するほか、経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響が大きな足かせとなる中、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方を崩していない。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年8月以降)



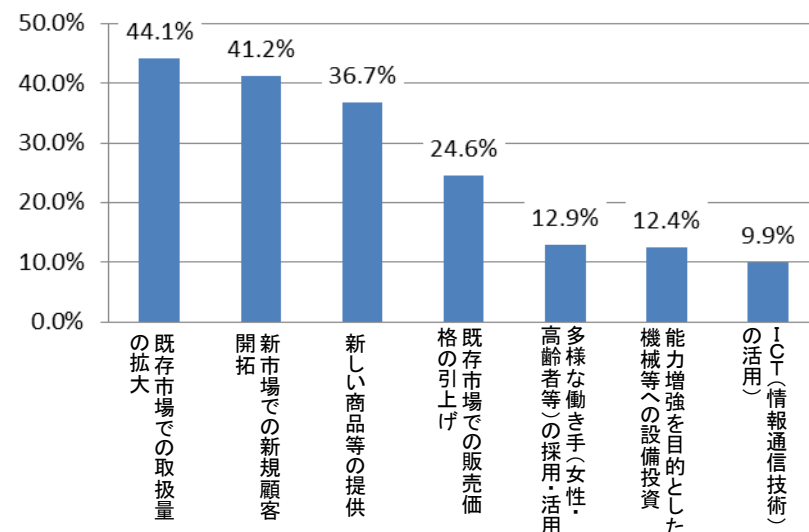
生産性の向上に向けた取組みとその問題点について

- ▶ 中小企業における売上増加、収益力の向上に向けた取組みは、「既存市場での取扱量の拡大」が44.1%、「新市場での新規顧客開拓」が41.2%
- ▶ コスト削減に向けた取組みは、「従業員の人材育成・能力強化」が46.8%、「仕入れ先・仕入れ価格・仕入れ商品等の見直し」が44.5%
- ▶ 生産性向上に取組む上での問題点は、「従業員の能力やモチベーションが上がらない」が34.2%、「人手不足による受注・販売機会の損失」が33.8%となり、中小企業では、人材育成ならびに人材採用への課題が浮き彫りになった

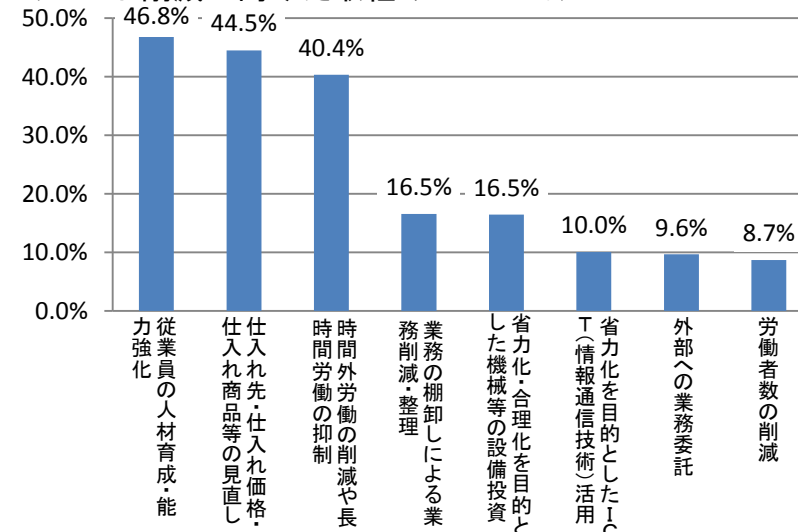
[中小企業の声]

- ▶ 単身者向けのニーズに対応するため、付加価値を高めた小分け商品を開発し、既存取引先に新たな提案を行っている（大船渡 水産加工品製造業）
- ▶ 従業員を、営業・機材設置・メンテナンス等の複数業務に対応できるよう育成し、人件費の削減とともに顧客との接点を強化している（札幌 特殊繊維卸業）
- ▶ 受注増に伴い、人員の補強や従業員の能力を強化し対応しているが、それでも人手が足りず、全ての受注には応えられない（東京 ソフトウェア業）

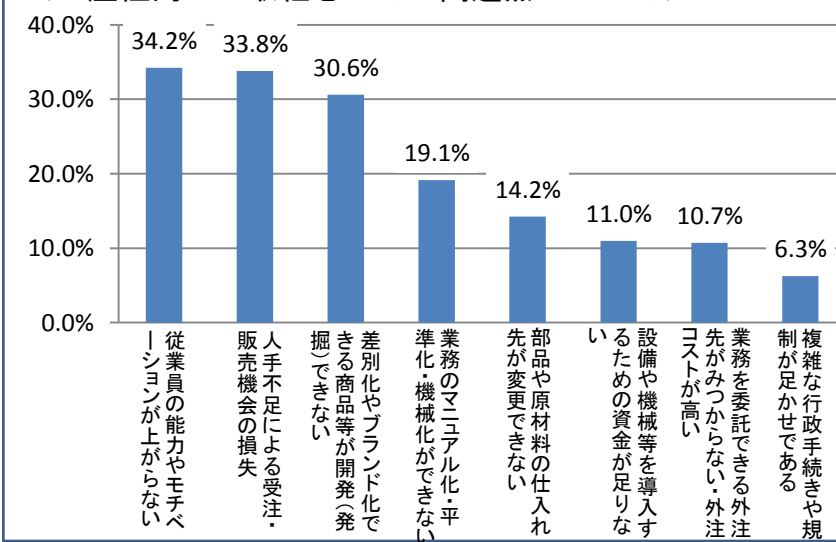
<売上増加等に向けた取組みについて>



<コスト削減に向けた取組みについて>



<生産性向上に取組む上での問題点について>



業況DIは、横ばい続く。先行きは改善見込むも、慎重な見方崩れず

＜結果のポイント＞

◇ 8月の全産業合計の業況DIは、▲24.9と、前月から▲0.4ポイントのほぼ横ばい。夏休みの堅調な観光需要のほか、賃貸住宅など民間工事に持ち直しの動きがみられる。また、円高などによる原材料価格の下落や依然として低い水準の燃料費の恩恵を指摘する声も聞かれた。他方、個人消費の鈍い動きや、販売先からのコストダウン要請の強まり、慢性的な人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇などが、中小企業のマインドを下押ししており、業況感は足踏み状況となっている。

◇ 業種別では、建設業は、住宅建設や設備投資に持ち直しの動きが見られ、改善。製造業は、飲食料品の好調な推移のほか、電子部品関連が上向きつつあるものの、工作機械、造船関連の受注が振るわず、ほぼ横ばい。円高や消費低迷により、取引先からの受注減や値下げ要請を指摘する声も多い。卸売業は、飲食料品に動きが見られたものの、天候不順等に伴う農水産物の出荷量減少や価格上昇による採算悪化、金属材料などの価格下落に伴う売上減少などにより、悪化。コスト増加分の価格転嫁の遅れを指摘する声もある。小売業は、夏物商品や飲食料品が好調な一方、消費者の節約志向により、インバウンドを含めた高額品販売の苦戦や、猛暑による客数減少を指摘する声もあり、悪化。サービス業は、夏休みの国内旅行や帰省で宿泊業が好調だったものの、人手不足から受注機会の損失や人件費の上昇で収益が伸び悩んでいるとの声が多く、悪化。

◇ 先行きについては、先行き見通しDIが▲21.4（今月比+3.5ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。観光需要や住宅建設が全体を牽引するほか、経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響が大きな足かせとなる中、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方を崩していない。

----- 調査要領 -----

○調査期間 2016年8月17日～23日

○調査対象 全国の423商工会議所が2,981企業にヒアリング

(内訳) 建設業：457 製造業：718 卸売業：324 小売業：697 サービス業：785

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および自社が直面する問題等

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がり意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

$$\text{業況・採算} : (\text{好転}) - (\text{悪化}) \quad \text{売上} : (\text{増加}) - (\text{減少})$$

＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、今月の業況D Iは前月に比べ、建設業で改善、製造業ではほぼ横ばい、その他の3業種で悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値の傾向(最近6カ月の傾向) ⬆ 改善傾向 ⇄ ほぼ横ばい ⬇ 悪化傾向

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⇄	⇄	⇄	⬆	⇄

- ・「民間工事の案件は多いため、売上は堅調に推移している。資材価格も落ち着いていることから、今後も採算のとれる案件に集中したい」(一般工事業)
- ・「アスファルト製品を除き建築資材は、全体的に下落が続いている。ただし、今後、熊本地震の復旧・復興事業が進んでいくにつれて、資材が品薄になり、価格は下げ止まると見ている」(建築工事業)

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⬇	⬇	⇄	⇄	⇄	⇄

- ・「スマートフォンなどの電子部品生産が上向き、半導体製造装置の受注は好調である」(制御装置製造業)
- ・「造船業からの発注の激減により、売上は落ち込んだ。今は受注を確保することに精一杯で、収益力の維持・向上に取り組む余力がない」(金属加工機械製造業)
- ・「売上が順調に推移しているため、将来を考え、これまでの採用活動を見直し、中途採用だけでなく、新卒採用も開始した」(調味料製造業)

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⬇	⬇	⇄	⬆	⇄

- ・「円高に加え、銅などの原材料価格自体も下落しているため、取引先からの値下げ要請が強まり、売上が減少した」(ケーブル・化成品等卸売業)
- ・「漁獲量が極端に悪く、売上、採算ともに悪化した。8月下旬からのサンマ漁解禁を契機に、売上を増加させたい」(水産物卸売業)

【小売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⬇	⇄	⬇	⬆	⇄

- ・「日傘等の夏物商品や飲食料品の売上は好調だが、高額品販売の落ち込みが深刻で、売上全体は減少した。お金に余裕のあるシニア層を中心に需要の発掘に努めている」(百貨店)
- ・「暑い日が続いているため、秋物衣料の動きが鈍く、売上は減少した」(商店街)
- ・「高年齢の顧客が多く、猛暑の影響から来店客数が減少している」
(飲食料品小売業)

【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⇄	⇄	⬇	⇄	⇄

- ・「燃料代は上昇しているものの、前年に比べ依然低い水準にあるため、採算はとれている。連日猛暑が続いていることで、飲料品の出荷は多い」(運送業)
- ・「8月はイベントが多く、近隣の旅館を含め客室の稼働率が高い」(旅館業)
- ・「売上は好調だが、人手不足から人件費が上昇し、採算は悪化している。また、繁忙のためサービスの質が低下していないか気がかりである」(レストラン)

【業況についての判断】

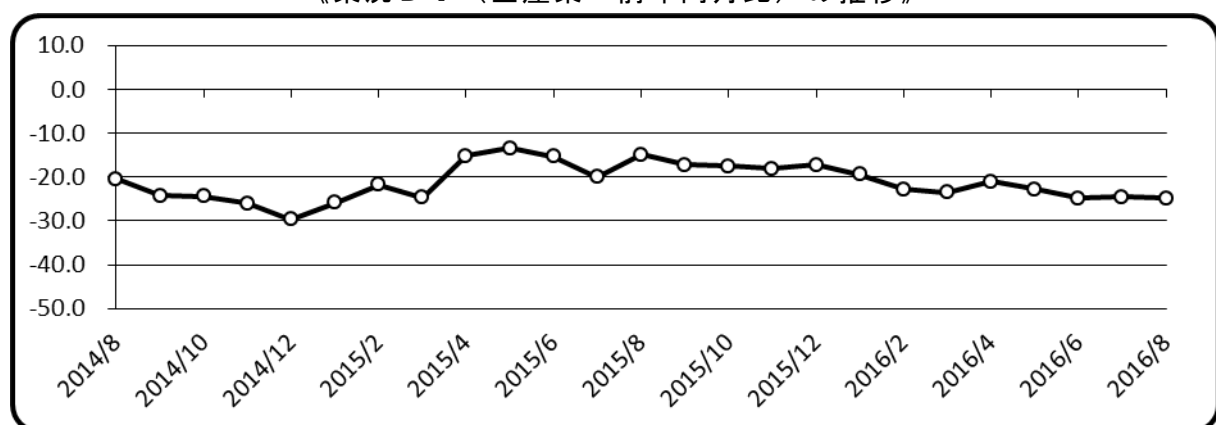
- 業種別では、建設業は、住宅建設や設備投資に持ち直しの動きが見られ、改善。製造業は、飲食料品の好調な推移のほか、電子部品関連が上向きつつあるものの、工作機械、造船関連の受注が振るわず、ほぼ横ばい。円高や消費低迷により、取引先からの受注減や値下げ要請を指摘する声も多い。卸売業は、飲食料品に動きが見られたものの、天候不順等に伴う農水産物の出荷量減少や価格上昇による採算悪化、金属材料などの価格下落に伴う売上減少などにより、悪化。コスト増加分の価格転嫁の遅れを指摘する声もある。小売業は、夏物商品や飲食料品が好調な一方、消費者の節約志向により、インバウンドを含めた高額品販売の苦戦や、猛暑による客数減少を指摘する声もあり、悪化。サービス業は、夏休みの国内旅行や帰省で宿泊業が好調だったものの、人手不足から受注機会の損失や人件費の上昇で収益が伸び悩んでいるとの声が多く、悪化。
- 向こう3カ月（9～11月）の先行き見通しは、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲21.4（今月比+3.5ポイント）と、改善の見込み。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業はほぼ横ばい。その他の4業種は改善の見込み。ただし、いずれの業種も「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

業況D I（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲23.6	▲21.0	▲22.8	▲24.8	▲24.5	▲24.9	▲21.4
建設	▲17.8	▲18.8	▲21.0	▲22.5	▲22.6	▲17.8	▲18.1
製造	▲18.4	▲16.2	▲13.2	▲22.1	▲20.8	▲20.2	▲19.0
卸売	▲25.9	▲31.3	▲25.1	▲30.4	▲27.5	▲33.1	▲27.1
小売	▲41.8	▲32.0	▲36.2	▲39.9	▲37.2	▲38.2	▲32.8
サービス	▲14.6	▲12.7	▲20.4	▲12.5	▲16.9	▲18.9	▲13.5

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

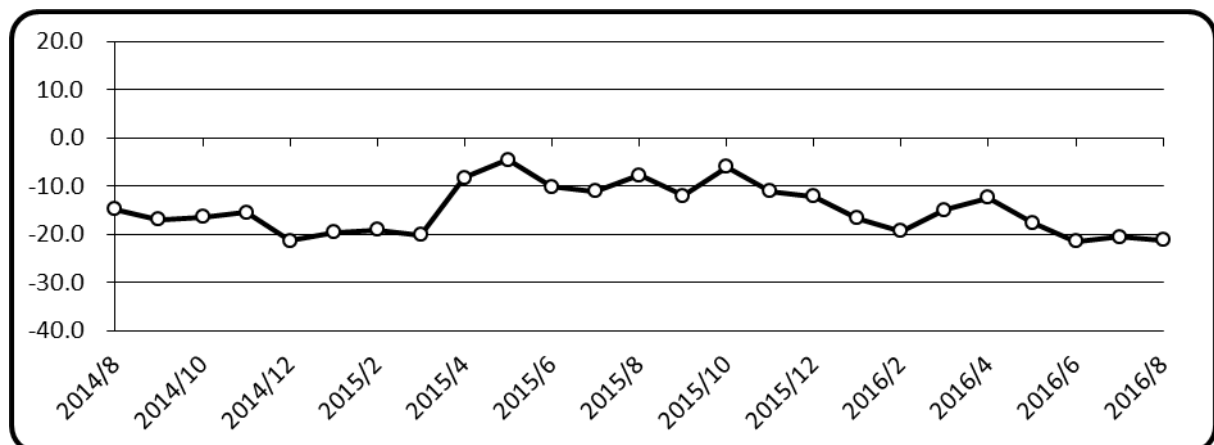
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲21.2（前月比▲0.6ポイント）と、ほぼ横ばい。産業別にみると、建設業は、公共工事の動きが地域によってまだ模様となる中、民間工事の持ち直しにより、改善。製造業は悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。海外向けスマートフォンの回復を受け、電子部品の生産が上向きつつあるが、他方、工作機械や造船などで、円高や海外経済の減速の影響によって受注量が減少しているとの声が聞かれた。卸売業は、猛暑や好調な観光需要を背景に、飲食料品が全体を押し上げ、改善。金属材料などの価格下落に伴う売上減少を指摘する声もある。小売業は、夏物商品や飲食料品が好調な一方、暑い日が続いた影響で、客数の減少や秋物衣料品の動きが鈍かったことに加え、前年のプレミアム付商品券の効果の反動減を指摘する声も聞かれ、悪化。サービス業は、夏休みに伴い宿泊業で客数の増加が顕著だったほか、飲食料品の出荷増による配送需要の増加から運送業の売上が伸び、改善。
- 向こう3カ月（9～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲18.2（今月比+3.0ポイント）と改善の見込み。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業、小売業、サービス業で改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はいずれも横ばい圏内の動きとなる見込み。その他の2業種は、ほぼ横ばいとなる見込み。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲14.9	▲12.5	▲17.6	▲21.5	▲20.6	▲21.2	▲18.2
建設	▲16.4	▲16.0	▲17.7	▲16.1	▲23.8	▲19.8	▲15.3
製造	▲12.5	▲4.9	▲5.1	▲15.8	▲17.0	▲18.3	▲17.4
卸売	▲12.3	▲13.0	▲15.9	▲30.4	▲20.6	▲19.3	▲18.7
小売	▲25.6	▲28.7	▲35.9	▲38.5	▲30.8	▲39.4	▲32.1
サービス	▲7.7	▲3.1	▲14.4	▲10.9	▲13.2	▲9.7	▲8.6

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

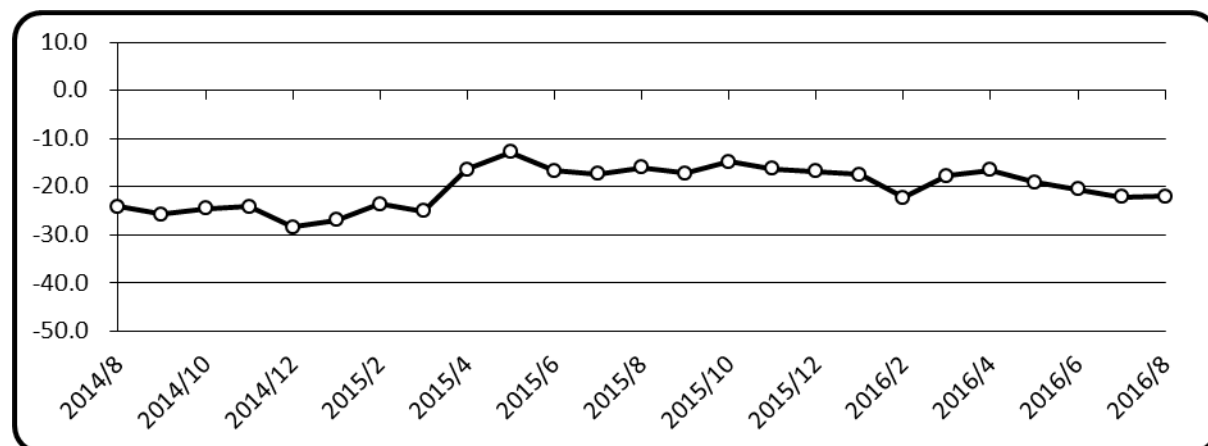
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲22.1（前月比+0.1ポイント）と、ほぼ横ばい。産業別にみると、建設業は改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。建材価格に落ち着きが見られる一方、価格競争や人件費・外注費の増加が厳しいとの声が多く聞かれた。製造業は改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。取引先からのコストダウン要請や外注費の増加が、依然として採算を圧迫している一方、円高による原材料価格の下落が採算の改善に寄与したとの声も聞かれる。卸売業は悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。円高による輸入品の仕入価格の下落がみられたが、他方で天候不順等による農水産物の価格上昇分を販売価格に転嫁できないとの声がある。小売業は、消費者の節約志向が根強く、高額品の販売が低迷していることに加え、インバウンド需要が単価の安い化粧品等へ流れているとの声が聞かれ、悪化。サービス業は、前年比では依然として低い水準にある原油価格の恩恵も伺える一方、人件費や採用コストの増加が深刻であるとの声が多く、ほぼ横ばい圏内の動き。
- 向こう3カ月（9～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲18.4（今月比+3.7ポイント）と改善の見込み。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、製造業でほぼ横ばい。改善を見込むその他の4業種は、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はいずれも横ばい圏内の動きとなる見込み。

採算D I（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲17.7	▲16.6	▲19.0	▲20.6	▲22.2	▲22.1	▲18.4
建設	▲18.3	▲19.2	▲17.3	▲14.0	▲28.8	▲22.8	▲16.9
製造	▲17.6	▲10.6	▲11.4	▲16.7	▲18.6	▲16.3	▲15.4
卸売	▲11.2	▲14.8	▲11.8	▲23.8	▲17.7	▲23.0	▲18.7
小売	▲28.3	▲29.9	▲31.5	▲36.3	▲29.5	▲32.7	▲28.9
サービス	▲10.5	▲9.8	▲20.2	▲12.8	▲17.2	▲17.6	▲13.0

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲ 11.7	▲ 9.1	▲ 12.5	▲ 12.1	▲ 12.1	▲ 13.3	▲ 12.8
建設	▲ 10.2	▲ 6.2	▲ 8.3	▲ 9.8	▲ 8.2	▲ 10.7	▲ 10.1
製造	▲ 9.7	▲ 6.0	▲ 7.1	▲ 9.4	▲ 10.6	▲ 9.1	▲ 9.9
卸売	▲ 4.3	▲ 6.2	▲ 10.0	▲ 4.8	▲ 5.0	▲ 6.0	▲ 9.1
小売	▲ 22.7	▲ 18.0	▲ 23.1	▲ 22.9	▲ 19.9	▲ 23.5	▲ 18.8
サービス	▲ 8.3	▲ 7.5	▲ 12.5	▲ 9.9	▲ 12.4	▲ 13.8	▲ 14.1

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲ 13.3と、前月から悪化。産業別にみると、製造業で改善、その他の4業種では悪化した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、小売業で改善、卸売業で悪化、その他の3業種ではほぼ横ばいとなる見込み。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲ 24.2	▲ 25.5	▲ 22.4	▲ 21.5	▲ 20.8	▲ 17.5	▲ 17.5
建設	▲ 27.1	▲ 20.9	▲ 20.1	▲ 20.2	▲ 20.8	▲ 15.8	▲ 15.2
製造	▲ 13.1	▲ 15.0	▲ 12.5	▲ 13.1	▲ 14.3	▲ 8.3	▲ 9.1
卸売	▲ 31.3	▲ 28.6	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 23.8	▲ 16.9	▲ 18.2
小売	▲ 32.6	▲ 36.3	▲ 27.1	▲ 23.7	▲ 22.9	▲ 21.8	▲ 21.1
サービス	▲ 22.9	▲ 28.1	▲ 29.6	▲ 28.1	▲ 24.5	▲ 24.7	▲ 24.2

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲ 17.5と、前月から改善。産業別にみると、サービス業でほぼ横ばい、その他の4業種では改善した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、横ばいの見込み。産業別にみると、卸売業で悪化、その他の4業種ではほぼ横ばいとなる見込み。

従業員D I（前年同月比）の推移

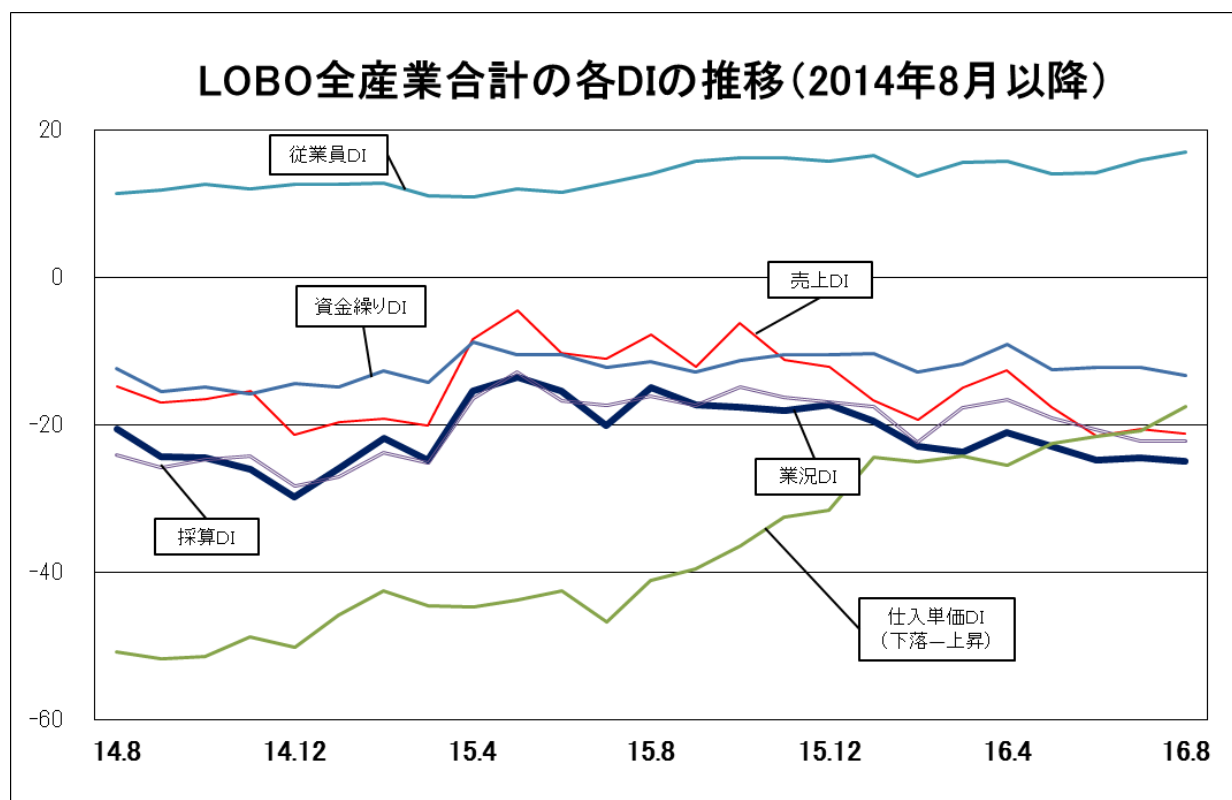
	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	15.6	15.8	14.1	14.2	15.9	17.1	18.0
建設	18.3	16.4	14.3	13.2	15.2	21.2	25.7
製造	7.6	6.0	4.1	5.5	6.8	6.3	7.8
卸売	7.4	9.9	8.2	7.1	10.6	9.6	10.8
小売	19.8	20.4	18.8	18.7	21.2	23.3	22.2
サービス	22.3	24.0	22.6	22.8	23.3	23.4	23.3

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは17.1と、前月から人手不足感が強まった。産業別にみると、建設業、小売業で人手不足感が強まり、卸売業で人手不足感が弱まった。その他の2業種はほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、小売業で人手不足感が弱まり、建設業、製造業、卸売業で人手不足感が強まる見込み。サービス業はほぼ横ばいとなる見込み。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I



【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北陸信越、四国、九州で改善、北海道、関東、中国ではほぼ横ばい、その他の3ブロックで悪化。ブロック別の概況は以下のとおり。

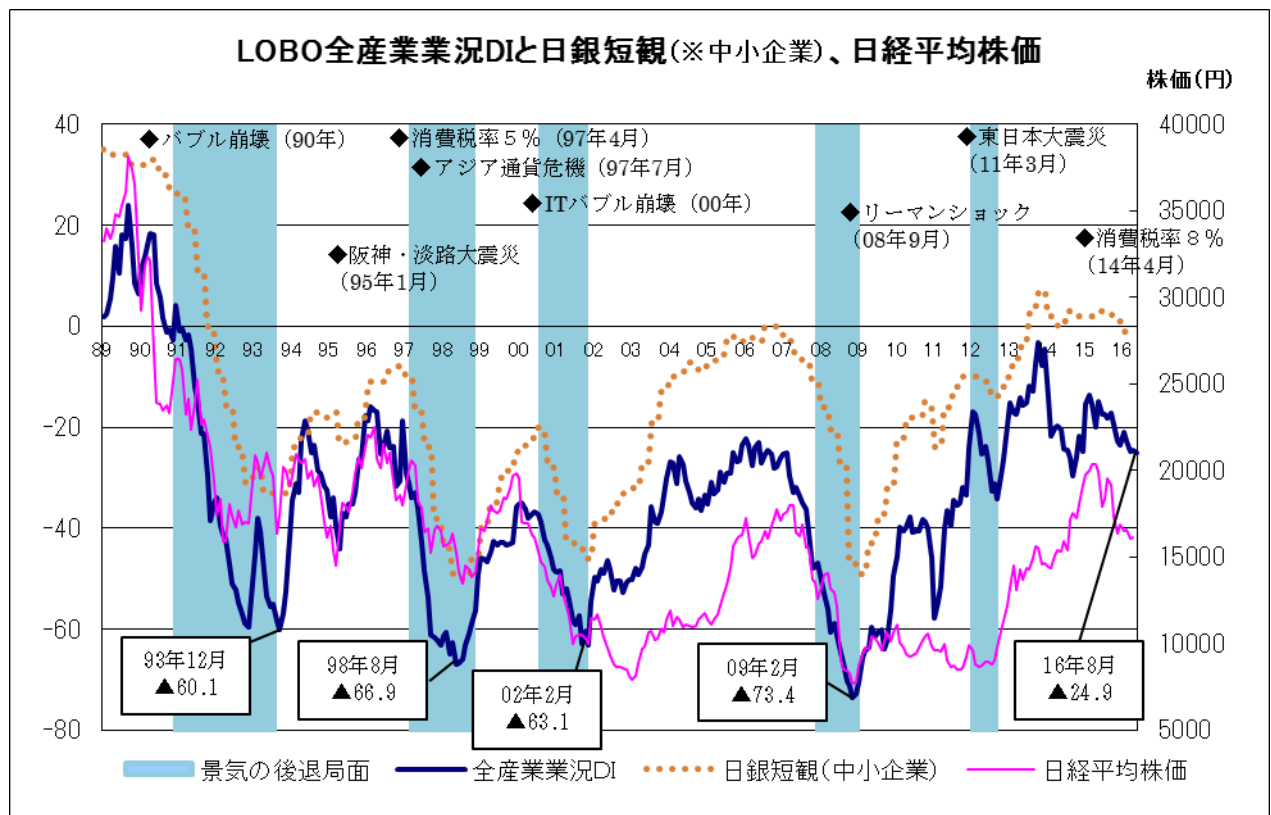
- ・ 北海道は、ほぼ横ばい。夏休みシーズンを迎え、観光需要は堅調だったものの、消費者の節約志向や台風など荒天の影響もあり、客足が伸び悩んだ小売業、サービス業の売上が悪化した。
- ・ 東北は、個人消費低迷の影響により、小売業、外食や旅館などのサービス業の売上が伸びず、3カ月連続で悪化。夏休みの観光客・帰省客は増加しているが、人手不足から売上を伸ばすことができないとの声が聞かれた。
- ・ 北陸信越は、2カ月ぶりに改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。駅周辺の再開発や中心部への居住ニーズを捉え、建設業の業況が改善した。他方、観光関連産業では前年の北陸新幹線効果の反動や個人消費の低迷を指摘する声がある。
- ・ 関東は、ほぼ横ばい。都市部の再開発の動きや設備投資の持ち直しから、建設業が改善したほか、飲食料品を中心とした製造業が好調に推移した。他方、卸売業からは、農水産物の仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できないとの声がある。
- ・ 東海は、2カ月ぶりに悪化。外国人観光客やビジネス客の利用増加を見込んだホテルの建設が都市部で進み、建設業の業況が改善したものの、自動車や工作機械関連の輸出減速などから製造業の業況が悪化した。
- ・ 関西は、2カ月ぶりに悪化。新型スマートフォン向けの部品生産等に動きがみられ、製造業の売上、業況が改善したが、インバウンドを含め高付加価値品・サービスの販売が落ち込み、小売業、サービス業の業況が悪化した。
- ・ 中国は、ほぼ横ばい。主要観光地への客足が好調で、宿泊業などを中心にサービス業が改善した。他方、円高の影響等により自動車や鉄鋼の輸出が振るわず、製造業の業況が悪化した。
- ・ 四国は、2カ月ぶり改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が影響していることに留意が必要。公共工事の鈍い動きを指摘する声があるものの、大規模なイベント開催などにより観光関連を中心に小売業やサービス業の業況が改善した。
- ・ 九州は、3カ月連続で改善。国の交付金により九州旅行が最大7割引になる「九州ふっこう割」などが、夏休みシーズンの観光需要増加に寄与し、サービス業の業況が改善。また、猛暑の影響でエアコンや飲食料品の売上が伸びるなど、個人消費にも持ち直しの動きが見られ、小売業の売上が改善。

○ ブロック別の向こう3カ月（9～11月）の業況の先行き見通しは、今月と比べ、北海道、東北、北陸信越、関東、東海、関西で改善、その他3ブロックで悪化の見込み。ただし、改善を見込む東北、関東、関西は「悪化」から「不変」、悪化を見込む四国、九州は「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。観光需要や住宅建設が全体を牽引するほか、経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響が大きな足かせとなる中、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方を崩していない。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	▲ 23.6	▲ 21.0	▲ 22.8	▲ 24.8	▲ 24.5	▲ 24.9	▲ 21.4
北 海 道	▲ 24.8	▲ 25.3	▲ 23.3	▲ 24.3	▲ 22.5	▲ 23.2	▲ 14.2
東 北	▲ 26.3	▲ 22.7	▲ 15.6	▲ 24.5	▲ 26.1	▲ 35.4	▲ 29.5
北陸信越	▲ 35.2	▲ 22.5	▲ 28.0	▲ 27.5	▲ 34.5	▲ 28.6	▲ 21.1
関 東	▲ 21.7	▲ 23.7	▲ 24.7	▲ 26.4	▲ 26.4	▲ 25.6	▲ 22.4
東 海	▲ 18.0	▲ 20.6	▲ 20.7	▲ 22.7	▲ 19.0	▲ 26.6	▲ 23.9
関 西	▲ 25.0	▲ 10.9	▲ 17.0	▲ 23.8	▲ 20.5	▲ 23.1	▲ 15.0
中 国	▲ 16.5	▲ 10.8	▲ 22.9	▲ 24.0	▲ 18.6	▲ 18.5	▲ 19.8
四 国	▲ 17.0	▲ 17.9	▲ 16.5	▲ 14.9	▲ 20.4	▲ 15.5	▲ 19.6
九 州	▲ 32.7	▲ 31.0	▲ 35.2	▲ 32.0	▲ 31.3	▲ 22.6	▲ 24.6

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI



※短観（中小企業）：資本金2千万円以上1億円未満の企業が調査対象